



地元の若者の 観点から

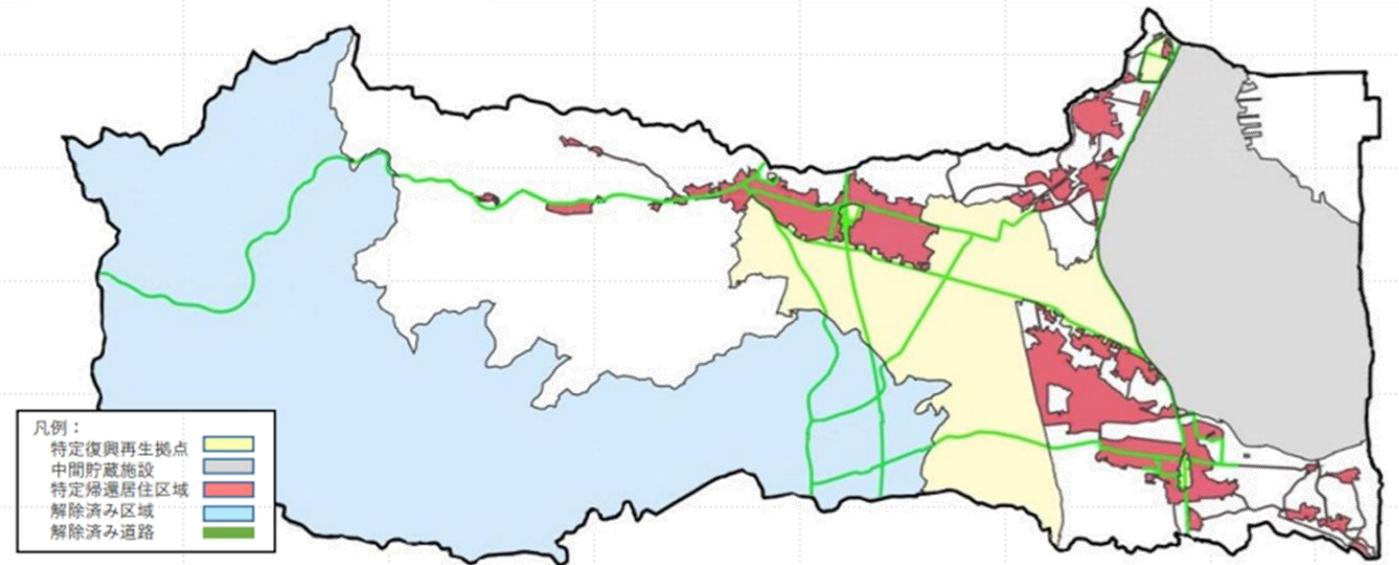
第26回福島ダイアログ

福島第一原発の廃炉・廃棄
物管理と地域の未来

大熊町出身 遠藤瞭

自己紹介

- 氏名：遠藤瞭
- 生年月日：2000/10/8
- 出身：大熊町
- 東北大学大学院工学研究科 修士2年
- 当時の自宅は特定帰還居住区域の中にある



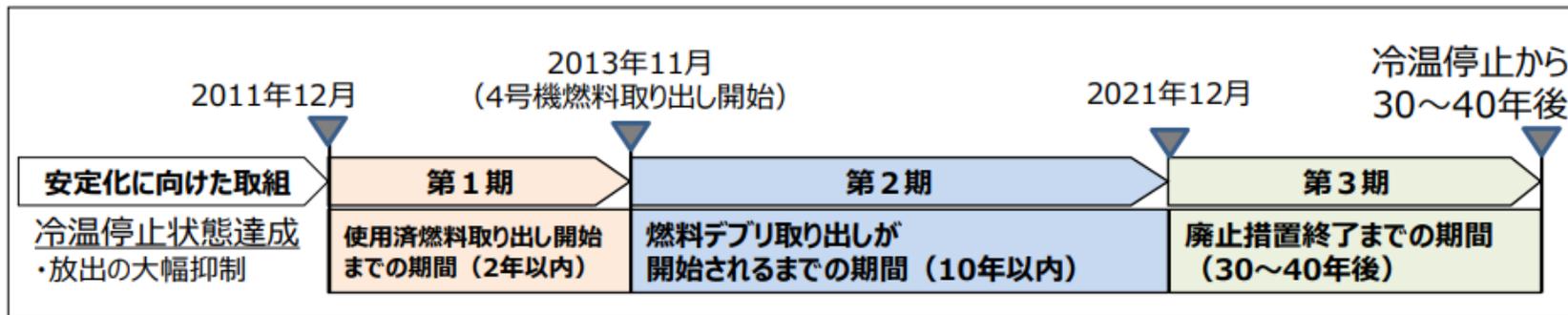
復興庁 特定帰還居住区域復興再生計画

「<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-4/saiseikyoten/20230928101604.html>」

廃炉 中長期ロードマップ

- 中長期ロードマップとは、福島第一原発の廃炉を進めていく上での基本的な考え方や主要な目標工程等を政府が定めたもの。
 - 2011年12月に初版が決定され、最新は2019年12月の5回目の改訂版である。
- 下図はそれを資源エネルギー庁が抜粋して要約したものの。

<現行中長期ロードマップの主要工程>



福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期ロードマップの改訂について
https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku/committee/osenisuyori/2021/pdf/23_11.pdf

廃炉について思うこと

- 一番大切なのは安全に進めること
- 日常生活の中で全ての情報を追うことは困難
- 「廃炉作業」が「私たちの日常生活」に大きく関わってくるものは知っておいた方が良いのではないか
ex.)処理水の海洋放出、除去土壌の県外最終処分 などなど

廃炉に伴い発生する放射性廃棄物

- 放射性廃棄物の形態、種類、放射線量はケースバイケース
- 廃棄物の最終処分は科学だけでは解決できないトランスサイエンスな課題

- 不安は人それぞれ
「よく分からないから不安」 「よく分かってても不安」 「信用できない」
- 不安の細分化
「自分はどこに、どうして、どんな不安を感じているのだろう」



廃炉との関わり方を考える

- 廃炉にはどんな課題があるのか
- 社会がそれらと向き合うためにはどんな障壁があるのか

- 誰が考えるべき問題か
- どうやって考えるのが有効だろうか（ex.手段、時期、場所）

廃炉の終わりを考える

- この地に住む私達にとってどんな将来が望ましいか
- 福島教訓という意味で、万人にとって望ましい将来はどんなものか
- その将来を叶える廃炉は
 - ① 技術的に
 - ② 金銭的に実現可能なものなのか



廃炉を成し遂げることの意味

- 何か起きたらそれでおしまい
- 見えないどこかで知らない誰かが負担を被ればいい
- そんな結果になってしまうと非常に悲しい

- 誰一人取り残されない社会 を目指して



公平性という観点

- 私達の日常生活は電気なしでは成り立たない
- 誰しものが受け取っている「電気というリターン」の裏にはどこかの誰かが受けている「発電に伴う潜在的なリスク」がある

- 福島第一原発の廃炉はこの地域だけの問題だろうか？
- あらゆる負担を公平に
- その問題を知ること、学ぶこと、理解することという負担